

AKI-PICプログラマー Ver. 3.5 キット

ベストセラー PICプログラマ キット（書籍・雑誌でも多数掲載）

専用両面ガラス基板でリニューアル。

40P / 28Pゼロプレッシャーソケット付きで 12C509、16F877、16C74、16F84、16C711など拡張ソケット無しで対応出来るようになりました。



Microchip PIC16XXシリーズ

PICプログラマーキット Ver 3.5

28ピン・40ピン両ゼロプレッシャーソケット搭載で8ピン12C509から40ピン16C74、最新16F873、16F877までこの基板のみで対応します。

★高級ガラスエポキシ両面基板採用 ★書き換え可能な12F629、12F675対応

for WindowsXP/ME/2K/98

- ★ソフトはWINDOWSパソコンで動作するCD-Rが付属しています。
- ★書き込みデバイスは PIC16F84はもちろん、40ピンの64、74、8ピンの508、509、最新の16F873、877など当社取り扱いのほとんどのICがこの基板のみで、書込ができます。
- ★ARIS社製高信頼28ピン、40ピンゼロプレッシャーソケット採用で、8ピン、18ピン、20ピン、28ピン、40ピンのどのICもレバーで簡単に抜き差し出来ます
- ★当社オリジナルアセンブラ、マイクロチップ純正アセンブラ付で、このキットだけで開発が始められます。
- ★マイクロチップ社データ、プログラムCD付で、各ICの詳細なハードウェアマニュアル、ソフトウェアマニュアルも収録されています。
- ★当社オリジナルのサンプルプログラムも多数収録！
- ★パソコンとのインターフェイスはRS232Cを使用（Dサブ9ピン）
- ★電源は7805、NJM317内蔵です 15V以上200mAが必要です。

■対応デバイス

PIC16C84, F84, F84A, F83	EEPROM内蔵
PIC16C54, 55, 56, 57, 58	PICマイコンの基本モデル
PIC16C62, 63, 64, 65,	PWMモジュール内蔵
PIC16C71, 72, 73, 710, 711, 74, 77	8ビットA/Dコンバータ内蔵
PIC12C508, 509 PIC12F629, 12F675	PIC最小の8ピンマイコン
PIC16F873, 874, 876, 877	最新のA/D内蔵EEPROMマイコン

■部品表■

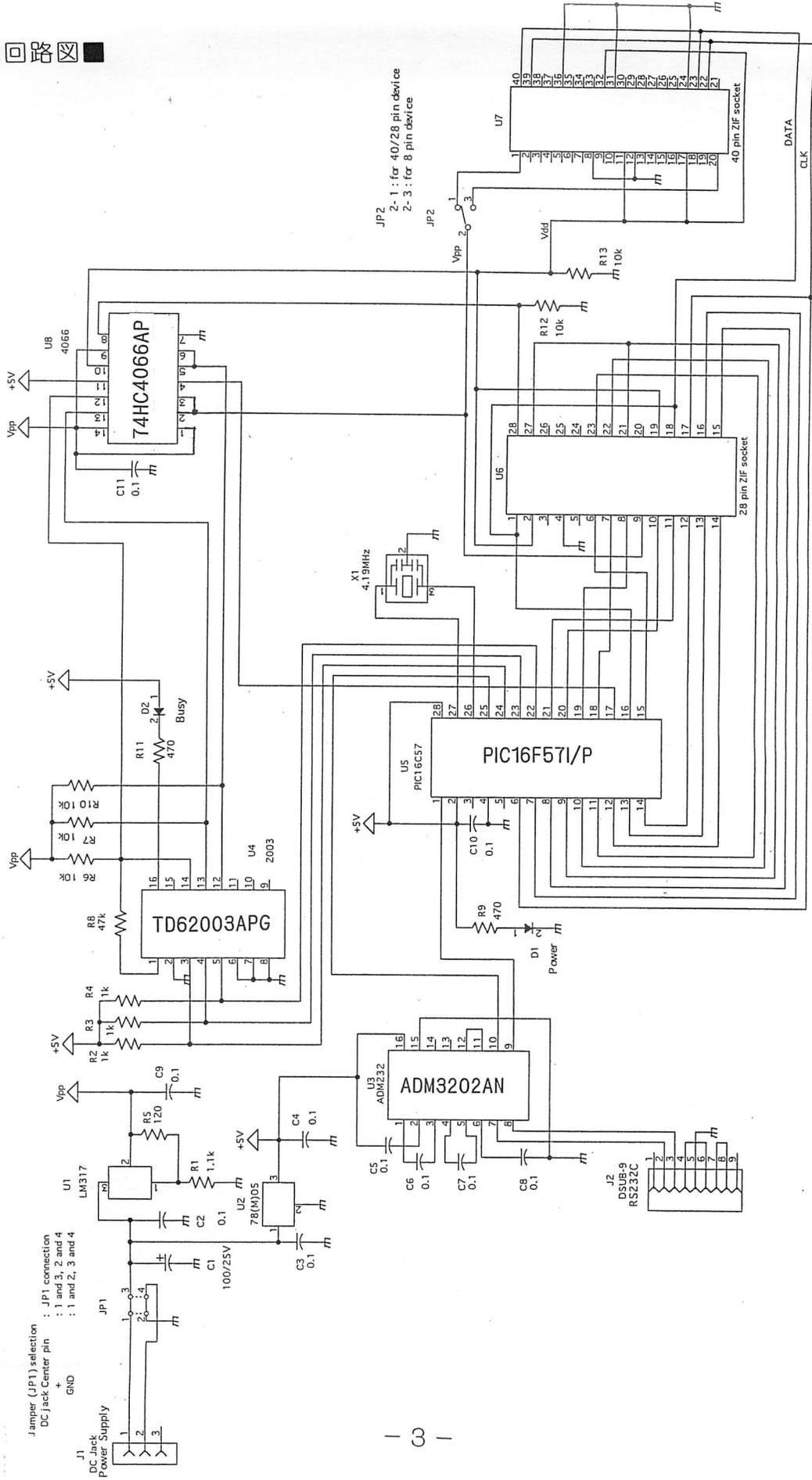
半導体	U 1	LM3 1 7 (NJM317)	1	可変3端子レギュレータ	
	U 2	7 8 0 5 (78M05)	1	+5V3端子レギュレータ	
	U 3 注	ADM232AAN (MAX232)*	1	RS232Cレベルコンバータ	
	U 4 TD62003APG	μPA2003 (MCT1413) *	1	7回路入りトランジスタアレー	
	U 5 PIC16F57I/P	PIC16C57 (SX28) *	1	制御用マイコン(シール貼付済)	
	U 8 TC74HC4066AP	4066 *	1	4回路入りアナログスイッチ	
	抵抗	R 1	1. 1KΩ	1	1/4W 茶茶黒茶金 金属皮膜抵抗
		R 2, 3, 4	1KΩ	3	1/4W 茶黒赤金
R 5		120Ω	1	1/4W 茶赤黒黒金 金属皮膜抵抗	
R 6, 7, 10, 12, 13		10KΩ	5	1/4W 茶黒橙金	
R 8		47KΩ	1	1/4W 黄紫橙金	
R 9, 11		470Ω	2	1/4W 黄紫茶金	
コンデンサ		C 1	100μF	1	電解コンデンサ(耐圧20V以上)
	C 2~11	0.1μF	10	積層セラミックコンデンサ 表示 104	
セラミック	X 1	4.19MHz(コンデンサ内蔵)	1	セラミック発振子(3本足)	
LED	D 1, D 2		2	発光ダイオード	
ICソケット		14P	1	U 8用	
		16P	2	U 3, U 4用	
		28P	1	U 5用	
	ゼロフレッシュソケット	28P	1	U 6用	
	ゼロフレッシュソケット	40P	1	U 7用	
コネクタ	Dサブ9P	メス	1	J 2用 RS232C用	
コネクタ	DCジャック	基板取り付け用	1	J 1用 電源用	
コネクタ	JP 2	3Pピンヘッダ	1		
		ショートピン	1		
基板	AE-PICPGM-II		1	専用基板	
CD-R	秋月オリジナル マイクロチップ純正	専用ソフト *	1	WINDOWS用 CD-R	
		データ、プログラム *	1	WINDOWS用 CD-R	

注 U3は、ADM232と互換品のSP232,ADM3202の場合があります。

部品は予告なく相当品・互換品に変更になることがあります。メーカーにより若干型番が異なることがあります。製作前に部品表と照らし合わせてご確認してください。
部品表、回路図、部品配置図を参考にしてください。

■回路説明

特殊な部品は一切使用していません。7805は制御用マイコン及びターゲットのPICのV_{dd}を供給し、317はV_{pp}(書込電圧)を供給するICです。各電圧は4066(アナログSW)を経由してPICマイコンに加わります。2003はアナログSWの入力レベル変換用です。パソコンとはRS232で接続されますので、ADM232(MAX232改良品)を使用してレベル変換を行います。電源アダプタの極性は基板JP1を設定することで芯線(+),芯線(-)のどちらのアダプタにも対応しています。



JP2
 2-1: for 40/28 pin device
 2-3: for 8 pin device

Jumper (JP1) selection
 DC Jack Center pin
 +
 GND

JP1 connection
 : 1 and 3, 2 and 4
 : 1 and 2, 3 and 4

■製作■

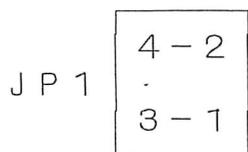
特に難しい半田箇所はありませんので、1つ1つ確実に半田付けしてください。

極性がある部品 IC、ICソケット、電解コンデンサ、LED、Dサブコネクタ

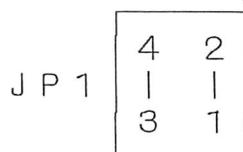
極性の無い部品 抵抗、積層セラミックコンデンサ、セラロック

- 1、ICソケット、抵抗、コンデンサ、ダイオード等の高さの低い部品から取り付けます
- 2、3端子レギュレータ、セラロック、LED等を取り付けます。3端子レギュレータはあらかじめリードを曲げてから取り付けてください。LEDは基板印刷の・印がカソード（リードの短い方）です。セラロックは真ん中のリードがGNDですので、左右2本の極性はありません。
- 3、ゼロプレッシャーソケットを取り付けます。ソケットは使わずに基板に直接半田付けします。
- 4、Dサブ9P、電源ジャック基板を半田付けします。Dサブ9P用ネジは付属していません。（通常はネジ止め無しで使用できます。）
- 5、このキットはACアダプタの極性（芯線+、芯線-）どちらにも対応しています。ご使用になるACアダプタによりJP1を次のように配線してください。

A, 芯線+ ⊕ — ● — ⊖ の場合



B, 芯線- ⊖ — ● — ⊕ の場合



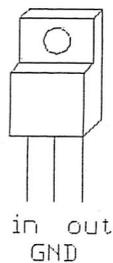
- 6、JP2を取り付けます。JP2は40pinゼロプレッシャーソケットで書込を行なう場合に付属のショートピンで2-1または2-3をショートします。
- 7、U3, 4, 5を差す前に一度電源を入れPowerLEDの点灯を確認してください
- 8、もう一度、部品・部品の向き・半田付け等を確認し、OKならばIC（U3・U4・U5・U8）をICソケットにさして基板の完成です。

■動作チェック■（書込ソケットU6, 7にICを差さない状態でチェックします）

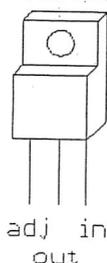
ライターの電源をいれるとPowerLEDが点灯します。

DOS版ライターソフトPICW.EXEを起動し、『ライターチェック』を実行し、画面に接続OKと出れば動作チェック完了です。

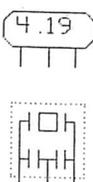
7805
78M05



LM317T
NJM317F



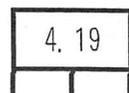
LED 電解コンデンサ



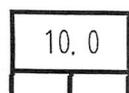
等価回路

注意

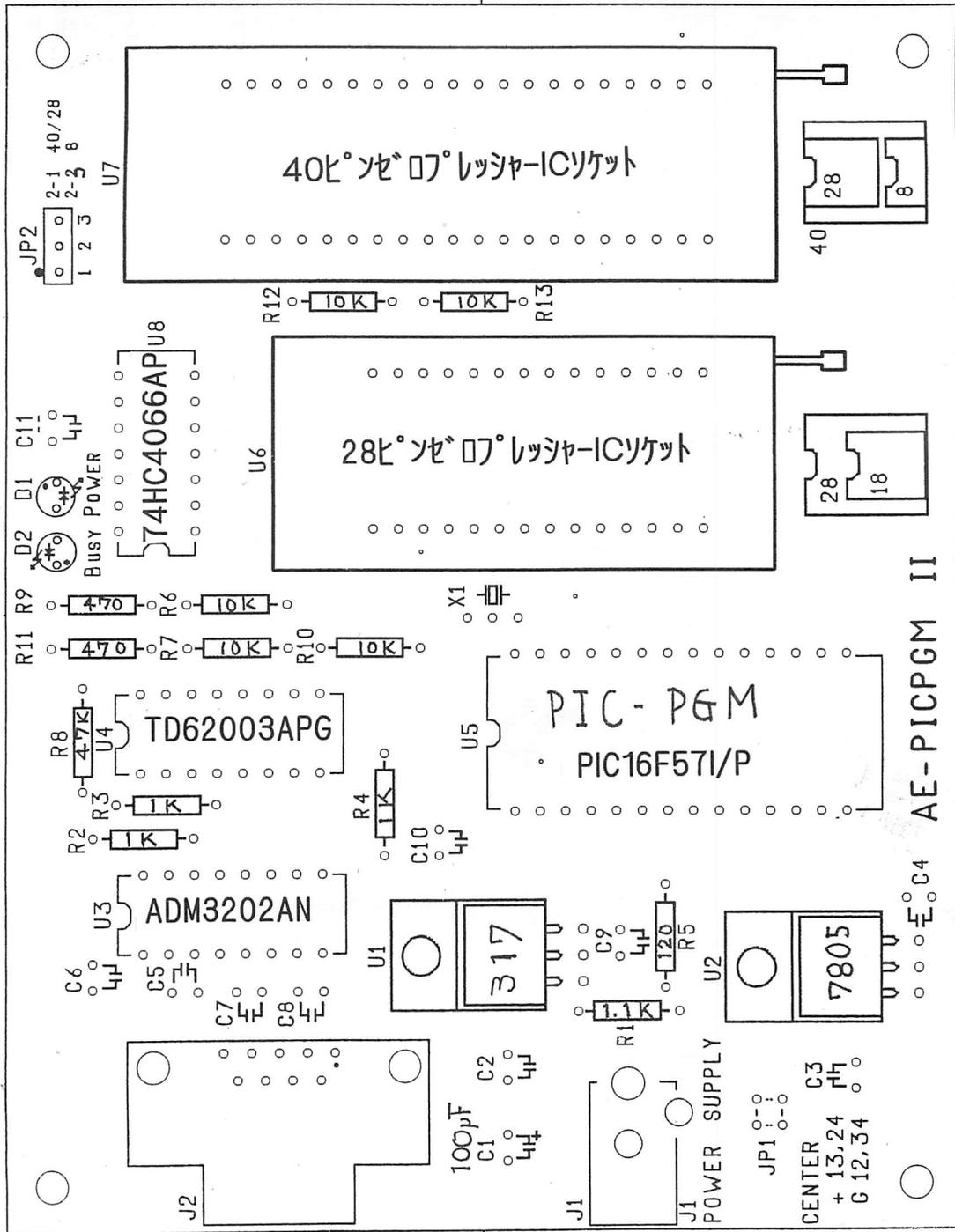
PICプログラマーキットの発振子（3本足のセラロック）X1は4.19MHzをご使用ください。おまけのセラロック10MHzはサンプルプログラム動作チェック用です。



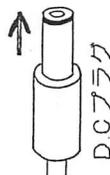
X1用



サンプルプログラム用



パソコン comポートへ



電源 15V
(ACアダプタ等)

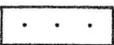
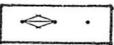
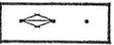
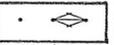
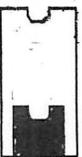
■書込ソケットの対応とJP2の設定■

各ICはU6, U7の決まった位置でのみ書込や読出ができます。

また、U7を使用する場合JP2の設定をする必要があります。

差し込み場所や設定を間違えるとICが破損する可能性がありますので注意してください

★ICは1番ピンが上側(レバーと反対側)にくるようにしてください。

PICマイコン	JP2	差し込み場所		
16C55, 16C57	接続 しない 	U6に 差す	U6 	U7
16C84, 16F84, 16F84A, 16F83 16C54, 16C56, 16C58 16C71, 16C711, 16C710	接続 しない 	U6の下側 に合わせて 差す	U6 	U7
16C64, 16C65 16C74, 16C77, 16F874, 16F877	2-1 を接続 する 	U7に 差す	U6	U7 
PIC16F873, 876 PIC16C62, PIC16C63 PIC16C72, PIC16C73	2-1 を接続 する 	U7の上側 に合わせて 差す	U6	U7 
12C508, 12C509 12F629, 12F675	2-3 を接続 する 	U7の下側 に合わせて 差す	U6	U7 

■ソフトのインストール■

このキットには秋月電子オリジナルCD-Rで次のソフトがはいっています。

ソフトはWINDOWS98/95パソコンで動作します。

1、CD-Rの内容

¥ASM
¥DOS
¥WIN

DOSアセンブラ
DOS版のライターソフト、シュミレータソフト
WIN版ライターソフト

¥SAMPLE
¥SOURCE

サンプルソフト
コントロールソフトのソースファイル(参考用)

が、それぞれのディレクトリ(フォルダ)に入っています。

2、ライターコントロールソフトのインストール

DOS版 ハードディスクにPIC等のフォルダ(ディレクトリ)を作り、¥DOS内の全てのファイルをコピーしてください。

PICW.EXEがコントロールラソフト、PS.EXEがシュミレータソフトです。

WIN版 ¥WIN内のSETUP. EXEをWINDOWSから実行してください
WINDOWSのメニューにPic-pgmが生成されます。

¥WIN内のREADME.WRI (ライト文章)が使い方マニュアルです

- 3、アセンブラソフト (当社オリジナルDOS版) のインストール
ハードディスクにASM等のフォルダ (ディレクトリ) を作り、¥ASM内の全てのファイルをコピーしてください。

PA.EXEがアセンブラソフト、PA.MANが使い方マニュアルです。

- 4、アセンブラソフト (マイクロチップ社純正 MPASM)
マイクロチップ社データ、プログラムCD-ROMのDevelopment ToolsにMPASMがはっています。

16FF873、F874、F876、F877は、MPASMをご使用ください。

★注意★

書き換え可能な16F84A、12F629、12F675等はWIN版のライターソフトのみで対応しています。

WIN版は、DOS版の機能をすべて含みますので、ライターソフトはWIN版をご使用ください。

■実際に書き込んでみよう! (サンプルプログラムの書き込み)

ライターハードのチェックを兼ねてPIC16F84に簡単なサンプルプログラムを書き込んでみます。PIC16F84は何度でも書き込めますので便利です。

★始めに付属FDからパソコン本体のハードディスク等に必要なファイルをコピーしてください。コピーの方法については各パソコンのマニュアルをご覧ください。又、フロッピーには最新情報も入っていますので、そちらもご覧ください。

(1)ライターソフトを起動し、『ファイルロード』を選択します。

(2)カーソルで「sample.hex」を選んで ENTER (リターン) キーを押します。ファイルを読み込んで、16進ダンプで表示します。

(3)ゼロプレッションソケットにPIC16F84を挿し込んで、『プログラム』を選択します。BUSY LED が点灯し、書き込みが開始され、10数秒で終了します。書き込み手順は以上です。

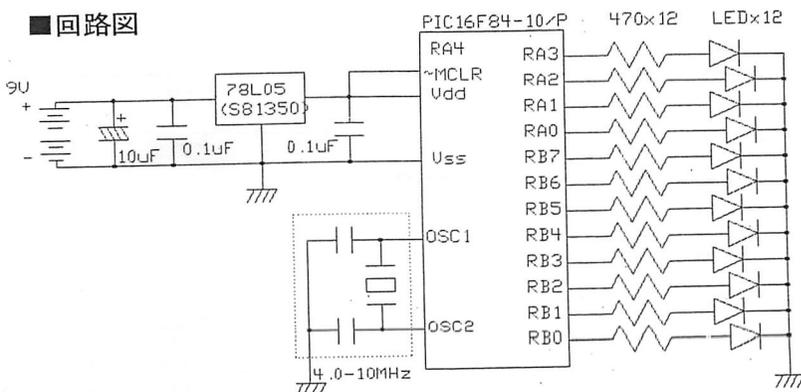
◆BUSY LED 点灯はライターが稼動していることを示すものです。点灯時のPICの抜き差しは厳禁です。

(4)書き込んだICを使って次の回路を作り、電源を入れるとLEDが右から左、左から右に点灯します。

(5)もう一度ライターにセットして、「sample2.hex」をロードして、書き込んでみてください。さきほどと違った点灯の仕方をします。

□ソースプログラムもディスクに入っていますので、参考にしてください。

■回路図



参考資料 TC74HC4066AP
(4066) μ PD4066B

QUAD BILATERAL SWITCH

μ PD4066Bはロジック入力信号によってコントロール可能なスイッチです。CMOS構造のためコントロール入力の信号ラインに対する影響が少なく、また信号入力によるON抵抗の変動が少なく、チャップ、モジュレータ、デモジュレータ等、広い応用分野があります。

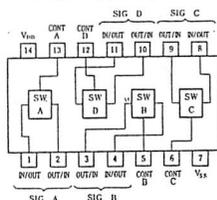
特徴

- 動作電源電圧範囲…… $V_{DD}-V_{SS}=3-18V$
- オン抵抗……60 Ω TYP. ($V_{DD}-V_{SS}=15V$)
- オフ抵抗が高く、リーク電流が少……0.1 nA TYP. ($V_{DD}-V_{SS}=10V, T_A=25^\circ C$)
- 各スイッチ間のクロストークが低い……50 dB TYP. ($f=8MHz$)
- リニアリティが良い……ひずみ率 0.1% TYP.
- 各スイッチ間のオン抵抗変動が少……5 Ω TYP. ($V_{DD}-V_{SS}=15V, V_{IS}=15V$)

オダ情報

オダ名称	パッケージ
μ PD4066DC	14ピンプラスチックDIP
μ PD4066DG	14ピンプラスチックSOP (225mil)
μ PD4066DG-T	14ピンプラスチックSOP (225mil, 粘着テープピン, 1ピン テープ引出し方向)
μ PD4066DG-T1	14ピンプラスチックSOP (225mil, 粘着テープピン, 1ピン テープ抜き方向)
μ PD4066DG-E	14ピンプラスチックSOP (225mil, エンボスエナリアテープピン, 1ピン テープ引出し方向)
μ PD4066DG-E1	14ピンプラスチックSOP (225mil, エンボスエナリアテープピン, 1ピン テープ抜き方向)

端子接続図 (Top View)



使用上の注意事項

- コントロール入力の空き端子はすべてHighかLowに固定してください。
- 本製品は、MOS ICですから、帯電性の大きな環境での取り扱いにご遠慮ください。

(2003) TD62003APG
 μ PA2000シリーズ

NPN ダーリントン エピタキシャル形シリコン トランジスタアレイ LED, ランプ, リレードライブ用

μ PA2000シリーズはNPNシリコントランジスタと周辺抵抗からなる7回路構成をモノリシックIC化したダーリントントランジスタアレイです。

TTLやCMOS, PMOS ICの出力信号に合わせてベース電流を制限する抵抗やレベルシフト用ダイオードを、また出力側にはサージ吸収用ダイオードを内蔵しているため300 mA程度の誘導性負荷をはじめとし、LEDやランプ等の駆動に最適です。

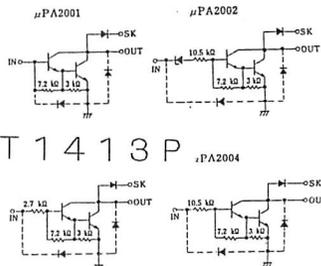
特徴

- 7回路のダーリントントランジスタを内蔵。
- 出力側にサージ吸収用ダイオードを内蔵。
- 直交流増幅率が高い。h_{FE}: 2800 TYP.
- 出力電流が大きい。I_O: 500 mA MAX.
- 出力抵抗が高い。V_{CE0}: 60 V MIN.

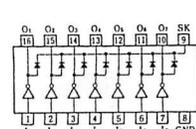
オダ情報

オダ名称	パッケージ
μ PA2001C	16ピン・プラスチック DIP (300mil)
μ PA2001GR	16ピン・プラスチック SOP (225mil)
μ PA2002C	16ピン・プラスチック DIP (300mil)
μ PA2002GR	16ピン・プラスチック SOP (225mil)
μ PA2003C	16ピン・プラスチック DIP (300mil)
μ PA2003GR	16ピン・プラスチック SOP (225mil)
μ PA2004C	16ピン・プラスチック DIP (300mil)
μ PA2004GR	16ピン・プラスチック SOP (225mil)

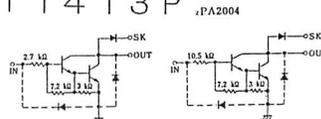
等価回路 (1/7回路)



電極接続 (Top View)



MCT1413P



- I : Input (Base)
- O : Output (Collector)
- GND (Common Emitter)

外形図
 μ PA2000Cシリーズ TYPE 23
 μ PA2000GRシリーズ TYPE 35

(LM317)

ADJUSTABLE 3-TERMINAL POSITIVE VOLTAGE REGULATOR

NJM317

3端子可変正出力定電圧電源

NJM317は、1チップに集積した出力電圧可変型の正出力3端子レギュレータICです。2個の外付抵抗により、出力は1.25V (基準) から31Vまで可変でき、熱抵抗を付することにより1.5Aクラスの出力電流にて使用可能です。

■外形



- 1. 入力
- 2. 出力
- 3. ADJ

■電圧定格

最大出力電圧	V_{VO}	40V ($T_A=25^\circ C$)
許容電圧	V_{IO}	16V ($T_A=25^\circ C$)
納品電圧 (動作電圧)	V_{IO}	-30 ~ +150V
動作電圧 (動作電圧)	V_{IO}	-30 ~ +150V
底電圧	V_{SS}	-50 ~ +150V

■特性

- 出力電圧: 1.25V (標準)
- 出力電流: 1.5Aクラス
- ヒューズレス特性がよい
- ラインレギュレーション: 0.01% / V 以下
- ロードレギュレーション: 0.1% 以下
- リニアロードレギュレーション (Ca₀付)
- 過負荷保護回路内蔵
- 熱安定化回路内蔵
- 安全保護回路内蔵

■熱特性

熱抵抗 (接合部-周囲空間)	θ_{JA}	60°C/W
(接合部-ケース間)	θ_{JC}	5°C/W

■電気的特性 ($V_{IO}=V_{VO}=5V, I_O=500mA, C_W=0.1\mu F, C_A=1\mu F, T_A=25^\circ C$) 測定はパルス試験とする

項目	記号	条件	最小	標準	最大	単位
基準電圧	V_{REF}		1.2	1.25	1.3	V
電圧レギュレーション	$\Delta V_{VO}/V_{VO}$	3V $\leq (V_{IO}-V_{VO}) \leq 40V, I_O=100mA$	1.2	1.25	1.3	%
線形電圧レギュレーション	$\Delta V_{VO}/\Delta V_{IO}$	10mA $\leq I_O \leq 1.5A$	1.2	1.25	1.3	%/V
ロードレギュレーション	$\Delta V_{VO}/\Delta I_O$	0% $\leq T_L \leq 125^\circ C$	-	5	-	mV
同変比	Line		-	50	100	μA
同変比	$\Delta I_{Load}/\Delta V_{IO}$	3V $\leq (V_{IO}-V_{VO}) \leq 40V, I_O=100mA$	-	0.2	5	%/V
同変比	$\Delta I_{Load}/\Delta V_{IO}$	10mA $\leq I_O \leq 1.5A$	-	0.2	5	%/V
ラインレギュレーション	$\Delta V_{VO}/\Delta V_{IO}$	3V $\leq (V_{IO}-V_{VO}) \leq 40V, I_O=100mA$	-	0.01	0.04	%/V
ロードレギュレーション	$\Delta V_{VO}/\Delta I_O$	10mA $\leq I_O \leq 1.5A, V_{IO} \leq 5V$	-	5	25	mV
同変比	Line	$V_{IO} > 5V$	-	0.1	0.5	%
短絡電流	I_{Smax}	$(V_{IO}-V_{VO})/40V$	-	3.5	10	mA
ピーク出力電流	I_{PKmax}	5V $\leq (V_{IO}-V_{VO}) \leq 15V$	1.5	2.2	-	A
出力電圧変動	ΔV_{VO}	$(V_{IO}-V_{VO})/40V$	0.15	0.4	-	mV
リニアリティ	RR	10Hz $\leq f \leq 10kHz$ (RMS値)	-	0.001	-	%/V
リニアリティ	RR	$(V_{IO}-V_{VO})/120Hz, C_{W0}=0, C_{A0}=10\mu F$	-	65	-	mV
リニアリティ	RR	$(\Delta V_{IO}=1V, V_{IO} > 1V)$	66	80	-	dB

(MAX232)

ANALOG DEVICES

ADM3202AN

高速、+5V、0.1 μ F

CMOS RS-232ドライバ/レシーバ

ADM222/ADM232A/ADM242

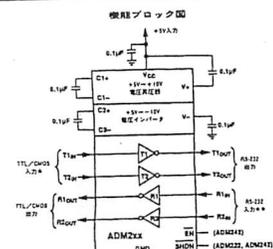
- 特長
- 20k/sの転送レート
- 小容量 (0.1 μ F) の電圧チャージ・ポンプ用コンデンサ
- +5V電源動作
- EIA-232-EおよびV.22規格に適合
- 2個のドライバと1個のレシーバ
- DC-DCコンバータを内蔵
- +10V電源でTV出力保護
- ±10Vのレシーバ入力レベル
- MAX231/MAX232A/MAX232とピン・コンパチブル

- 応用
- コンピュータ
- 周辺機器
- モデム
- プリンタ
- 計測

概要

ADM222, ADM232A, ADM242は最高200k/sまでの転送レートで動作する高速RS-232ライン・ドライバ/レシーバ・ファミリです。+5V単電源で動作し、小容量 (0.1 μ F) の外部コンデンサを高性能なチャージ・ポンプ用に使することで、RS-232Cレベルを形成します。各製品は2個のRS-232Cドライバと1個のRS-232Cレシーバを備えています。これにより電流を0.1 μ Aに減少させ、シャットダウン、すべての送信/受信線はディスプレイ状態になります。パッケージは18ピンのDIPとワイドSOICパッケージが用意されています。

ADM242には、シャットダウン (SHDN) 機能とイーザブル (EN) 機能があります。このシャットダウン機能で電流を0.1mAに抑えることができます。シャットダウン時に、トランジスタはディスプレイ状態になります。レシーバは待機状態になります。またイーザブル機能により、レシーバは待機状態になります。つまり高速のデータで動作できる機能があります。パッケージは18ピンのDIPとワイドSOICパッケージが用意されています。



オダ・ガイド

モデル	温度範囲	パッケージオプション
ADM222AN	-40°C ~ +85°C	N-18
ADM222AR	-40°C ~ +85°C	R-18W
ADM232AN	-40°C ~ +85°C	R-18
ADM232AAR	-40°C ~ +85°C	R-16N
ADM232AARW	-40°C ~ +85°C	R-16W
ADM242AN	-40°C ~ +85°C	R-18
ADM242AR	-40°C ~ +85°C	R-18W

図1. ADM232AのDIPとSOICのピン配置

■ライターソフトの説明 図はDOS版(PICW, EXE)の画面です。

DOS/V・PC98どちらのソフトも特別の説明が無い部分は画面構成・機能方法は同じです。

★メニューはカーソル↑↓で選ぶほか項目の頭のアルファベットキーでも選択することが可能です。(ショートカット)

★DOS版ライターソフトPICW, EXEは、WINDOWSのDOS窓では基板との通信がうまく行かない場合があります。WINDOWSを終了させ、MS-DOSモードで再起動してご使用ください。

AKI PIC16CXX PROGRAMMER Version 1.00 Copyright 1996-1997 (c) by M.Ochiai		Port No.: COM1(03F8h)
Edit File: sample.hex		ステータス表示
PROGRAM MEMORY [PGM: 1024words] [DATA: 64bytes]		デバイス 16F84
000 2804 3FFF 3FFF 3FFF 0185 0186 3000 0065		発振タイプ HS
008 3000 0066 3018 00A4 300C 0084 0180 0A84		ウォッチドッグ OFF
010 0BA4 280E 300B 00A9 300C 0084 3080 0080		パワーUPTIMER ON
018 2027 0A84 0BA9 2816 300B 00A9 3017 0084		プロテクト OFF
020 3080 0080 2027 0384 0BA9 2820 2812 0804		ID LOCATION FFFFh
028 00AA 30A0 00A5 2046 0BA5 282B 2038 3000		メニュー
030 00A5 2046 0BA5 2831 2038 082A 0084 0008		L) ファイルロード
038 300C 00A4 300C 0084 3000 0200 1903 2842		S) ファイルセーブ
040 3008 0280 0A84 0BA4 283C 0008 300C 00A4		P) 書き込み
048 300C 0084 0800 00A6 300C 0784 0826 0780		R) 読み出し
050 3080 0200 1803 2856 1003 2859 3080 0280		V) ベリファイ
058 1403 0DA8 0DA7 300C 0284 0A84 0BA4 284A		B) ブランクチェック
060 0827 0085 0828 0086 0008 3FFF 3FFF 3FFF		D) デバイス選択
068 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF		O) 発振タイプ選択
070 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF		W) ウォッチドッグタイマ
078 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF		T) パワーアップタイマ
080 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF		E) プロテクトON/OFF
088 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF		F) ライターチェック
090 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF		C) コード/データ切替
098 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF 3FFF		

画面はDOS/V版です。

◆ファイルロード

HEXファイル(PA.EXEの出力する形式)を読み込みます。ファイル一覧が画面に出ますのでカーソルキーで選んでください。親のディレクトリ(..)にも移動できます。なお、ドライブの移動はできません。アセンブラ(PA.EXE)で作成したHEXファイルには書き込みIC・ウォッチドッグタイマ・プロテクト等の情報も記録されていますので、ロード時に各項目が自動設定されます。それ以外のHEXファイルの場合、書き込みICを尋ねてきますので、カーソルキーで選択してください。他の項目(WDT, PWRT, PROTECT等)もアプリケーションに応じて設定してください。

◆ファイルセーブ

今メモリ上にあるプログラムをファイルに書き出します。

フォーマットはインテルHEX形式です。ファイル名を入力し、ENTER(リターン)キーでカレントディレクトリに書き込みます。

◆書き込み(プログラム)

指定されたPICマイコンに書き込みます。

画面右上に表示された、PICマイコンをソケットに挿しこみ、準備ができてからこのコマンドを実行してください。メニュー選択後直ちに書き込みを開始します。プログラムコマンドは

『ブランクチェック』→『書き込み』→『ベリファイ』

を自動的に実行し、最後に結果を表示します。

ライター側電源・結線、PCの接続ポート等の設定が違っていると、書き込みができません。

▼ワнтаイム品は書き直しがききませんので、十分テスト・デバッグした上で行ってください。当社ではいかなる理由であっても、書き損じの保証はできかねます。あらかじめご了承下さい。

▼コマンド実行中(BUSY点灯中)は電源を切ったり、コネクタを抜いたりしないでください。

◆読み出し

指定されたPICマイコンからプログラムを読み出します。

画面右上に表示された、PICマイコンをソケットに挿しこみ、準備ができてからこのコマンドを実行してください。メニュー選択後直ちに呼び出しを開始します。ライター側電源・結線、PCの接続ポート等の設定が違っていると、読み出しができません。

□プロテクトが掛かっているICを読み出しても、正常なプログラムは返ってきません。

□ソケットに挿さっているICを自動認識することはできません。

□コマンド実行中は電源を切ったり、IC・コネクタを抜いたりしないでください。

読み出しコマンドでも、マイコンのプログラムを壊してしまうことがあります。

◆ブランクチェック

指定したPICマイコンが未消去・未書込みかチェックします。

画面に表示されたPICマイコンをソケットに挿しこみ、準備ができてからこのコマンドを実行してください。メニュー選択後直ちにチェックを開始します。チェック後、瞬時（ICによっては数秒後）に結果が表示されます。

◆ベリファイ

正常に書き込めたかチェックするコマンドです。

PICマイコンの内容とパソコン側メモリの内容を比較します。エラーの場合はアドレス・データ等を表示します。

※プロテクトを掛けて書き込んだICは、パソコン側のプログラムとは比較できませんので、必ずベリファイエラーが出ます。

◆デバイス選択

書き込み・読み出しを行うPICマイコンの型番を指定します。

このコマンドを選ぶと一覧が表示されますので、希望のICを選んでください。通常、ファイルロードを実行するとソースファイルで指定した、ICが自動選択されますので、通常の使用の際は、あえてこのコマンドを使う必要はありません。ソフト起動時はデバイスは未選択になっています。

◆ウォッチドッグタイマ

ICのウォッチドッグタイマを有効にするか、無効にするかを選択します。

通常、ファイルロードを実行するとソースファイルで指定した、設定が自動選択されますので、通常の使用の際は、あえてこのコマンドを使う必要はありません。

◆発振タイプ選択

PICマイコンの発振の種類を選択します。

LP, XT, HS, RCの4種類（PIC12C5XXのみLP, XT, ExtRC, IntRC）が選択可能です。しかし、OTP品でXT, HS等の様に発振タイプが限定されている場合はその発振タイプを選択するようにしてください。通常、ファイルロードを実行するとソースファイルで指定した、タイプが自動選択されますので、通常の使用の際は、あえてこのコマンドを使う必要はありません。

■12F675, 629の機能制限について■

12F675, 629は、このキットでは、発振タイプ（FOSC）の指定で内部発振指定のINTOSCを指定する事が、できません。また、別のライターでINTOSC指定で書き込まれた12F675, 629を読む（リード）する事も出来ません。

12F675, 629を、INTOSC指定で使用する場合は、PICプログラマキットVer 4バージョンアップセットでご使用ください。

◆パワーアップタイム・(MCLR)

ICのパワーアップタイムを有効にするか、無効にするかを選択します。

通常、ファイルロードを実行するとソースファイルで指定した、設定が自動選択されますので、通常の使用の際は、あえてこのコマンドを使う必要はありません。

□デバイス(PIC16C5X)によってはパワーアップタイム機能がないものもあります。この場合、この設定は無効です。

□12C5XXの場合はこの項目がMCLRイネーブル・ディセーブルの設定となります。

◆プロテクト設定

書き込みの際、ICにプロテクトを掛けるか掛けないかを選択します。

通常は掛けないの選択でOKでしょう。プロテクトを掛けると、もうそのICのプログラムを読むことは不可能になります。コピー・解析防止用です

□窓付きパッケージ品(EPROM品)にプロテクトを掛けると、ROMイレーサで消去しても、プロテクトを解除できません。つまり、1度プロテクトを掛けると再度書き込みをすることができないのです。プロテクトを掛けない場合は問題なく消去できます。

◆ライターチェック

ライター(書き込み器)の接続チェックをするコマンドです。

正常に終了した場合、ライター側制御用PICのファームウェアバージョンを表示します。

◆コード・データ切替

プログラム領域を16進ダンプ表示にするか、逆アセンブルして表示するかを選択します。

起動時には16進ダンプになっています。画面はPageUp/PageDownキー(PC98版は←/→キー)で上下にスクロールできます。逆アセンブル時には、ラベルやアセンブラの複合命令での表示はなくなります。また、PIC16F84等のデータ領域をもつICについてはデータ領域のダンプもできるようにになっています。

■起動時のオプション 起動時のオプションはDOS版のみです。
WIN版には起動オプションはありません。

C>PICW <オプション> <ファイル名>

ファイル名を指定すると起動時にそのHEXファイルを読み込みます。

オプション:

- | | |
|----------|---|
| -com<n> | ライター接続ポートを設定します。デフォルトはCOM1です。それ以外のポートの場合はこのオプションでポートを選択してください。通信速度は9600bps固定です。(ライターソフトが転送速度を自動設定します。ユーザーが設定する必要はありません。) PC98は通常COMポートは1つなので、この設定は無効です。 |
| -noblank | 書き込み時ブランクチェックをしません。通常、書き込み前に一度ブランクチェックをして(EEPROMデバイスはプロテクトチェックをする)何も書かれていないことを確認しますが、このオプションを指定するとそれをスキップします。予めチェック済みのICを書き込み場合などにご使用下さい。 |

-noverify

書き込み後のベリファイチェックをしません。

通常は、書き込み後にベリファイを行っています。このオプションでそれをスキップします。信頼性が下がりますので、通常は使用しないでください。

-standard

EEPROMデバイス的高速書き込みを禁止します。

□ライターのBUSY点灯時はESCキー等で処理を中断することはできません。

□ライター側との通信に関してはエラー処理対策を施してありますが、エラーが絶対ないとは言いきれません。何か動作がおかしくなったときはライターの電源を切って、数秒してから再度電源を入れてみてください。(ソフトも再起動してみてください)

■プログラム開発について

(1) ソースファイルの作成

VZ, MIFES等のエディタソフトを使用してプログラムを作成します。

(2) アセンブル

付属のPA.EXEを使用してアセンブルを行います。エラーが出たら(1)に戻ってプログラムを修正します。

(3) シュミレート

付属のPS.EXEを使用してソフト的なチェックをします。(PIC16F84のみが対象です)

(4) 書き込み

動作がおかしければ(1)に戻って修正します。

プログラマーキットを使って、PICマイコンにプログラムを書き込みます。

(5) 動作テスト

実際のハードウェアに組み込んで動作をチェックします。動作不良の場合は(1)からやり直します。

(6) 完成！！

あなただけのオリジナルキットの完成です！！

◆ (窓付き) マイコンの消去にはROMイレーサーという紫外線照射装置でおこないます。

ROMイレーサー LER-121A (完成品) 好評発売中

40ピンの16C74/JWを9個同時に消去できます。

1台 ¥5,800.

■使用上の注意

電源投入・切断は、ソケットからICを抜いてから行ってください。過電圧が加わり、ICが壊れることがあります。書き込み・読み出し等BUSYランプが点灯している時は、ICを抜いたり、コネクタをはずしたり、電源を切ったりしないでください。

読み出し/書き込み電圧に12.5Vを発生していますので、317内部ドロップ分を加算して電源には少なくとも約15V以上は必要です。電圧が低いと特定のICが書き込みできなくなる場合があります。

当キット・ソフトを運用して発生した損失・損害についてはいかなる理由であっても、当社・作者は一切、その責を負いません。あらかじめご了承ください。

PICはMicrochip Technology Inc.の登録商標です。

AKI-PICプログラマーキットマニュアル 第2版

ご質問は往復葉書又は封書にてお願いします。

秋月電子通商 1999/12

東京都世田谷区瀬田5-35-6